



スモールステップ



12月号

一つの区切り、そして新たなステージへ

副校長 能瀬 圭介

「品川特別支援学校は平成23年4月1日に開校しました。今年11年目、11歳です。5年生のみなさんと同じ年ですね。」

新型コロナウイルス感染症の影響で1年遅れましたが、中山校長先生のこの言葉で先月11月11日に創立10周年記念講話として実施をしました。

校長先生の講話の中で、品川は東京と京都を結ぶ東海道の中で1番目の宿場町として栄え、最初に開通した鉄道（新橋～横浜）区間でも品川を通るというこの地域の歴史がイラストや写真入りで紹介されました。

そして本校の校章の成り立ちについて、
・虹にかかる透き通った青空 ・大空に力強く羽ばたく小鳥 ・どこまでも続く広い海 ・しなやかに泳ぐ魚たち ・大地に美しく咲くツツジ（品川区の花）が品川の「S」を中心に太陽の形にデザインされているということが話されました。



その後、子どもたち出演の手作りメッセージビデオを見合いました。各学年の特色が存分に出的もので大いに盛り上がり、その時「みんなで本校の誕生をお祝いできた」という何とも言えない和やかな雰囲気が学校中に漂い、清々しい気持ちに包まれました。

そして同時に私はその時、本校が新たなスタートをしたと強く思っています。今回は校長室からの初ライブ中継方式でしたが、この方式もこれからのステージではさらに発展していくことでしょう。今、正門前と正門から入ってすぐの掲揚台の下には12種類560個のチューリップの球根が植えられています。中学部の園芸班の生徒さんが植えてくれました。春先には、街中でちょっと有名なチューリップ畑になる予定です。これまで本校の教育活動に関わってくださった方々に敬意を表しながら、これからも本校の校訓のように、「すこやかに、おおらかに、たくましく」品川特別支援学校は前進していきます。

今後ともよろしく願いいたします。



宿場町だったころの様子